海外研修報告シリーズ〈最終回〉

「これからのサービスを考える」

南大阪療育園　訓練部　作業療法科主任　辻　薫

いよいよこのシリーズも最終回を迎えることになりました。6回という限られた回数の中に果してどれだけのことをお伝えすることができたでしょうか。初回では、海外研修のすすめを申し上げ、2，3回ではアメリカの施設の現況を紹介し、4，5回では、視運動発達障害の評価と治療についての研修内容にふれました。これまでの間に領域を超えた多くの方々からお問い合わせやご意見、励ましをいただいたことを謹んで感謝致します。今回このシリーズを終えるにあたり、研修で学び感じ得たものを集約し、整理してみたいと思いました。これからの医療・福祉サービスについて、読者の皆様とともに問い直す機会となれば幸いです。

■医療・福祉サービスに対するニーズの変化

近頃は、わが国においても生活水準の向上に伴い医療や福祉に対するニーズが高まり、多様化してきていると思います。施設や治療方法また福祉機器なども選択の幅が広まりつつあり、ニーズを持ってこられた方々の意志が大切にされてきています。つまり、障害をもって相談に来られた方に対して、提供できる治療内容やサービスについて十分に説明し、納得していただいた上で方針を決定するといった、相談者とサービス提供者が対等な立場にあるということだと思います。アメリカのどの病院、施設においても、強くこのことが印象に残りました。なぜなら、アメリカでは、1973年にインフォームドコンセント（患者さん側に十分な情報を提供したうえで同意を得ること）が法的に確認され、患者さんの基本的人権が守られているからです。重度な障害をもち、自ら訴えることの難しい方達の権利を守り主張するために、それを代弁して問題解決に当たる代理人という職種が病院や施設にあるということにも感心致しました。

こういった基本的人権を守る姿勢は、子供の個別教育計画（教師を含む専門家達の立てた個別の子供の教育計画を、親が知り了解する権利をもつ）の実践などにも反映されています。また、アメリカでみた小児専門病院の多くは、明るく暖かい室内環境に加え、ゲームコーナーや遊び場などを設け、心の不安を取りのぞき安心して過ごせるよう工夫しています（写真）。ちょっとした研修エピソードですが、親からの同意書の無い子供さんの場合にはプライバシー保護のため、絶対に写真を撮らせていただけませんでしたので、子供さんの写真は手元にはほとんどありません。また、子供さんに対して家庭で使う特製椅子を買う計画の相談の際、お母さんは、家庭環境、値段、デザイン、運搬の方法など積極的に発言し、最終的に自分で判断するといった姿勢をもたれています。同様にカンファレンスにも、親は同席します。子供の状態について知る権利があるからです。また自分達家族のことを考え、負担を軽くし、よりよく家族みんなが生活できることを主体的に判断するためなのです。

いかがでしょうか。こういったそれぞれに責任をもつ対等・平等の関係が医療、福祉、教育において、この国で実践されるにはまだ時間がかかりそうに思います。しかし、日頃子供さんや御両親と接していて、やはり障害と共によりよく生きようとする姿勢がはっきりと伝わってきます。従って私ども施設の作業療法サービスも、随分と多様になって参りました。

●小児専門病院の病室、リビングルーム、レクリエーションルーム。

どこも色彩がカラフルで楽しい…

お散歩する広場も緑がいっぱい…

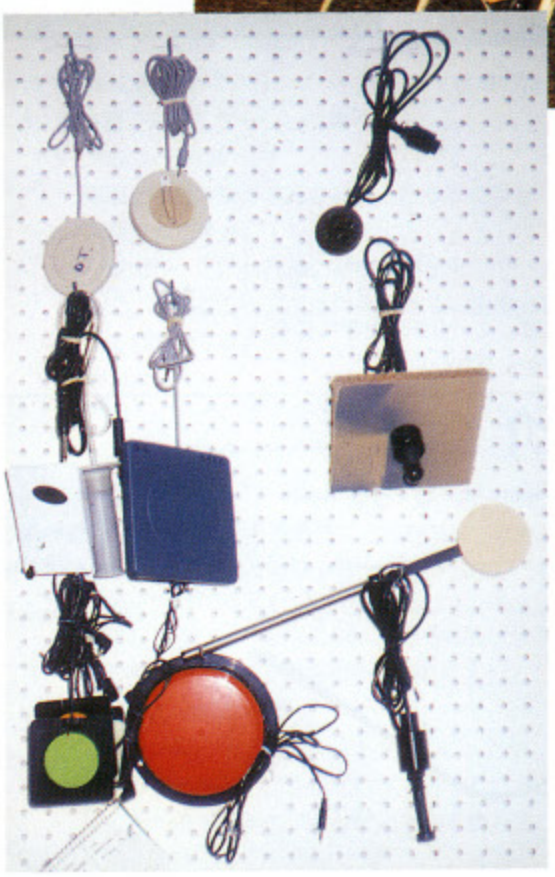
■ニーズに答える施設・スタッフのあり方

この研修での貴重な経験のひとつに、卒後教育プログラムへの参加がありました。これは、専門職養成機関（大学、病院、施設等）において、すでに現場で働く専門職を対象にして行う再教育プログラムなのです。アメリカでは、もともとリハビリテーションスタッフの一員である作業療法士（理学療法士も同様）の養成には、大学が中核となり卒後教育にも力を注いでいます。アメリカの州によっては、卒後国家試験で免許を収得したとしても、毎年一定の卒後研修を受けなければ、資格を失ってしまうきびしい制度をもっているところもあります。医師においても生涯教育が重要視され、医療を担う人材の生涯にわたっての自己研さんが強調されてきています。先にふれた、求められるニーズの変化に対応していくためには、そういった技術の向上だけでない、心へのサービスの充実も強く求められてくると思います。信頼できる治療を受けながら、一方では、快適で楽しく生活を過ごせる施設が望まれると思います。技術だけが大きく先行してしまったわが国の医療事情を見直す意味で、サービスを受ける側の「人としての権利」を尊重するところから出発しなおした、アメリカの医療・福祉施設やそれを支えるスタッフ達の態度を謙虚にうけとめ、これから少しづつよりよい方向に進んでいけたらと考えています。

●種類の豊富な車椅子などの福祉機器。

いろいろと選択でき、相談者のニーズに答えてくれます。

●学校では、必要な子供に対しては教室内でコンピューターも使われています。



能力によって操作スイッチを選んでいく。
我が国にも紹介されていますが、普及するまでには、コストの点からも手が届きにくい。

読者の皆様には、稚拙な文章にお付き合いいただきましたことを心から感謝致します。またこのような報告の機会をくださいましたパシフィックニュース関係者の方々にも厚く御礼申し上げます。有難うございました。

このシリーズに関するお問い合わせは、直接筆者までご連絡ください。

（〒546 大阪市東住吉区山坂5-11-21，TEL（06）699-8731）